

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成24年度第5回）議事要旨

1. 日 時 平成25年3月18日（月）14:00～16:00
2. 場 所 ホテルグランヴィア京都 5階「古今の間」
3. 出席者 磯貝議長
村井、新名、高比良、畚野、松本、片岡、北出の各学内委員
石井、小出、佐々木、志村、宮寫、CASSIM、矢嶋の各学外委員
欠席者 井上委員
陪席者 堀江教育研究支援部長
奥田、竹下、桐山、森川、成相、末廣の各課長
4. 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成24年度第4回）
議事要旨（原案）
資料2-1 平成25年度年度計画について
資料2-2 平成25年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学年度計画（案）
資料3 平成24年度目的積立金の配分について（案）
資料4-1 平成25年度奈良先端科学技術大学院大学予算の内示概要
資料4-2 平成25年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算編成方針について
（案）
資料5-1 学内諸規約の改正について【経営協議会】
資料5-2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学役員退職手当規程の一部改正につい
て
資料5-3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員就業規則等の一部改正について
資料5-4 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学教育研究系有期契約職員就業規則の
一部改正について
資料5-5 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学会計規則の一部改正について
資料6 本学の主な動きについて（平成25年1月24日（木）～平成25年3月17
日（日））
資料7 平成25年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学運営体制
資料8 平成25事業年度会計監査人候補者について
資料9 平成24年度外部資金の受入れについて
資料10 平成25年度経営協議会の開催予定日について
資料11 平成26年度 概算要求検討案の概要
資料12 奈良先端科学技術大学院大学工学分野 [工学分野のミッションの再定義に係る
意見交換における文部科学省提示資料]
参考資料 奈良先端大の概要と特色

5. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料1の平成24年度第4回の議事要旨（原案）について、原案どおり承認された。

（審議事項）

- (1) 平成25年度年度計画について
村井委員から、資料2-1～2に基づき、平成25年度年度計画について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (2) 平成24年度目的積立金の配分について
高比良委員から、資料3に基づき、平成24年度目的積立金の配分について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (3) 平成25年度予算内示及び予算編成方針について
高比良委員から、資料4-1～2に基づき、平成25年度予算内示及び予算編成方針について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(主な意見は、次のとおり)

- ・本年度の予算は、昨年度と比較して運営費交付金の削減及び電気料金の値上げが主な要因で約1億4000万円減となっており、支出を減らす等により対応を行っているものの、重点戦略経費に使える予算を減らさざるを得ず、昨年度に比べて厳しい状況にある。
- ・研究費助成プログラムが終了したあと、当該プログラムに基づき行っている事業のうち、どの事業にどれだけの予算を通常経費から捻出して継続させるべきか、しっかり考えないといけない。

- (4) 学内諸規約の改正について
高比良委員から、資料5-1～5に基づき、学内諸規約の改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

- (1) 本学の主な動きについて（平成25年1月24日～平成25年3月17日）
議長から、資料6に基づき、平成25年1月24日から平成25年3月17日に行われた本学の活動状況等について報告が行われた。
- (2) 平成25年度運営体制等について
議長から、資料7に基づき、平成25年度運営体制等について報告が行われた。
- (3) 平成25事業年度会計監査人候補者について
高比良委員から、資料8に基づき、平成25事業年度会計監査人候補者について報告が行われた。
- (4) 平成24年度外部資金の受入れについて
新名委員から、資料9に基づき、平成24年度外部資金の受入れについて報告が行われた。
- (5) 平成25年度経営協議会の開催予定日について
議長から、資料10に基づき、平成25年度経営協議会の開催予定日について報告が行われた。

(その他)

(1) 平成26年度概算要求検討案の概要について

高比良委員から、資料11に基づき、平成26年度概算要求検討案の概要について報告が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・防災対策機能を持つ多目的アリーナを設置した場合、災害発生時に被災した人々がそこに集まり、場合によっては大学の防災計画という枠を超え、困難な状況に陥った地域の方々を救済しなければならないということも考えなければならない。

(2) 工学系のミッションの再定義について

議長から、資料12に基づき、工学系のミッションの再定義について報告が行われた。

(情報交換・意見交換)

磯貝学長が経営協議会の議長を務めてきた今期(平成23年度～平成24年度)における本学の活動状況を振り返って、意見交換及び情報交換が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・日本においては、大学院大学は珍しく、歴史が浅いが、アメリカやヨーロッパでは以前からあったものであり、もう少し増えても良いものだと思う。
- ・学部に附属する大学院ではなく、大学院の教育プログラムを確立し、大学院が独立性を持ち機能していく必要がある。
- ・グローバル化社会で活躍できる人材養成が求められる中、我が国の成長戦略を踏まえつつ、奈良先端大の規模の適正を視野に入れ、今後の在り方を検討する必要がある。
- ・大学の国際化については、留学生の数等によるものではなく、学生がどれだけ国際的な通用性をもつのか等の実質化を図るべきである。
- ・奈良先端大は、限られたリソースの中で、けいはんな学研都市等の地域としての視点と大学院大学としてのグローバルな視点との調和をとって事業を展開して欲しい。
- ・研究費が税金で賄われていることに対する研究者の意識改革という視点も必要かもしれない。
- ・東日本大震災の後、我が国において、専門家に対する信頼が失われつつある。一方、あらゆる問題が科学技術の選択の時代になっている。このような状況の中、奈良先端大において、社会の様々な問題について本質を捉えて説明できる人材を養成することもその使命ではないだろうか。
- ・留学生の減少傾向は、日本の大学に留学することの魅力がなくなっていることが原因である。大学のミッションなどの情報を世界に発信し、留学生を呼び戻すことが、世界の科学者等のネットワークの構築に繋がり、ひいては日本の技術力の向上に繋がる。
- ・大学院大学として、学部を持つ大学院とは異なる入試政策を検討する時期に来ているかもしれない。
- ・奈良先端大は日本の大学院のベンチマークであり、次はグローバルなレベルでのベンチマークを目指す必要がある。そのためには、ユニークな科学者を輩出できる大

学として、国内外からの中長期的な財源の獲得や海外の国が奈良先端大を応援するような入試戦略などを検討していく必要がある。

- 奈良先端大は、MITやハーバード大学のように、日本だけでなくアジアから若い学生を呼び込むポテンシャルのある大学であり、そのための仕組み作りを検討していく必要がある。
- 奈良先端大には、学生が積極的に国際的な学問の世界に飛び込んで行く雰囲気を作って欲しい。
- タコツボになっている日本の大学院制度あるいは研究者養成制度を打破するには、学生に色々な経験を積ませることが必要である。このためには、アメリカのように入学した大学とは異なる大学院へ進学することが望ましく、学長として、奈良先端大の学生は優秀であると主張してきた。また、奈良先端大において教育の問題がこれからさらに重要となり、大学全体としてどのような学生を育成するかという共通認識の下、各研究科において教育戦略システムを策定していきたいと考えている。

以 上